切串西沖駐車場の増設を

山根　啓志　議員

答　県に強く要望

山根　昨年10月から切串―宇品航路が2社運行体制となり、利用者から好評をえている。江南・飛渡瀬など、大柿地区からも利用されており、その結果慢性的な駐車場不足におちいっている。早急な対策を。

市長　昨年駐車スペースを増設したが、現状の利用状況を見ると、さらなる駐車スペースの確保が必要と思う。管理者である県に強く要望しており、利便性・安全性の確保に努力する。↘

山根　高田港の乗船者数は、1日730人（高田港のみ）乗船台数は182台。切串西沖桟橋は、1日1300人（切串港発のみ）で172台。高田港の倍は必要。確保する事は可能か。

土木建築部長　今年度、県が設計等やると聞いている。その時、要望します。

山根　県は、どの様に考えているか。

土木建築部長　国道からフェリー乗船までの道路の位置を変え、駐車スペースを確保します。

山根　もう少し増やす方法を、提案できないか。

土木建築部長　現在の駐車場の活用を考え、結果を見て考えます。↖

切串・宮ノ原～中郷間の道路改修を

山根　切串港からバス等で来た人は、道の狭さカーブの多さに不安、部分的な改善が必要では。

土木建築部長　幅員を広げる部分は、県に改善依頼します。

山根　はみ出し禁止区間で大型バス等のはみ出しが有る部分の改善を。また、青少年交流の家に行く橋の拡幅は。

土木建築部長　カーブの改善と合わせ県に要望します。

山根　中郷と御殿山トンネルの底を下げる改善策は。

土木建築部長　今年度から2ヵ年で調査。維持修繕で対応出来れば、可能性が高い。

山根　出来る所から早急に行って欲しい。

▶ 駐車場が不足している切串西沖桟橋

保育園を民営化に

沖　也寸志　議員

答　早急に検討する

沖　少子高齢化の対策は国民全体の課題であります。本市では出生率が平成17年には4・07％、平成18年では3・84％と依然として低い数値であります。現在では核家族が一般的になり三世代家族はあまり見かけなくなりました。昔のように親から子供へと、子育ての知識と経験が受け継がれなくなっているのです。このような社会情勢の中、行政が地域単位で子どもたちを振り分けるのではなく、反対に保育園が選ばれる時代でもあります。それには人材と財源の有効活用が必要ではないでしょうか。そこで私が思いますのは保育園の民営化であります。今後の国・県の動向を踏まえ次の世代を担い、明日の社会基盤を支える子どもたちの成長が、ふるさと江田島市の将来であると思います。市長のご所見をお伺いいたします。

市長　民営化につきましては、国が公立保育園の運営費を一般財源化した平成16年度を契機に、全国の自治体で広く議論が高まりました。県内におきましても、この取り組みが進められております。本市では現在、保育園運営検討委員会答申に基づきまして、公立保育園だけでは提供できるサービスには、おのずと限界があります。多様な保育要望の実現と、効率的な保育園運営のために民営化については、今後、積極的に検討します。

▲ 元気に遊ぶ大古保育園児

人口減少に対する方向性は

住岡　淳一　議員

答　総合計画の見直しを検討

住岡　新聞各社の紙上に人口減少の記事が掲載されている。人口減少は江田島市の活性化を損なうと思うが。直近の出生率・死亡率・転出超過率はどうか？また、将来の人口推計はどのようになっていますか。

市長　出生率はわずかに減少、死亡率はわずかに増加、転出超過率が転入超過率を上回っております。市の総合計画以上に人口が減少しています。生活の利便性や快適性を高め、将来夢がもてるよう知恵をしぼって恵まれた自然・人・都市との近接性を最大限高めながら総合計画に基づく具体的な施策を行ってまいります。

企画振興課長　人口の数字は、図のとおりです。

住岡　人口減少による本市の総合計画の見直しは、考えていますか？合併ありきでできた政策・施策・公約を考え直す時だと思いますが。また、人口増加のため広島市・呉市等との近接性を利用した考え、計画はありますか。

市長　今の実施計画を全力を挙げて遂行していますが、次のステップに向け市民の声を聞きながら場合によっては抜本的な改革や変更・見直しを含めて行財政改革を行ってまいります。また、人口増加のため①津久茂架橋②切串―似島―宇品の橋③高須―狩留賀の海底トンネルの構想の要望活動等、働きかけを行います。

住岡　人口減少に歯止めをかけるには、定住促進や空屋対策が必要だと思います。その受け入れ態勢と情報発信はどのように考えていますか？

市長　定住を促進するため、引きつづき総合的な施策の検討を図っていきます。

産業部長　「えたじまで暮らし隊」「田舎暮らしを楽しもう会」など活動しているところです。

年齢別人口推計

	平成17年		平成22年		平成27年		平成32年	
	人	%	人	%	人	%	人	%
0～15才	3,158	10.5	2,378	8.69	1,944	7.87	1,540	7.02
16～64才	17,277	57.7	15,336	56.11	12,882	52.18	11,033	50.33
65才以上	9,504	31.8	9,650	35.2	9,865	39.95	9,351	42.65
総人口	29,939	100.0	27,364	100.0	24,691	100.0	21,924	100.0